



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲ 警告 …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。
冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲ 注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲ 警告

※ドアストッパー(床付け用)をご使用する方へ

●下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。

各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。

(1)ペースメーカーなどの体内埋込型機器 (2)人工心肺などの生命維持用機器 (3)装着型の心電計など

▲ 注意

●本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。
本体脱落の原因となります。

●建付け調整(丁番による調整)時、本体側丁番の固定ねじは必ずゆるみ、ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。

●丁番の戸当り側ねじ(皿タッピンφ4×60 4本)固定位置に躯体があることを確認してください。

●丁番固定ねじは必ずゆるみ・ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。

※ドアストッパー(床付け用)をご使用する方へ

●ドアストッパー床付け部品のフラップが立ち上がったままになっている場合は、必ず手で倒してください。思わぬケガをするおそれがあります。

●扉を開放しておくときは、必ずカバーを下げて扉を固定してください。扉が強風で強く閉まり思わぬケガをするおそれがあります。

■取付け上のおお願い

●本製品は、木質の既存枠及び柱に取付けられます。

●本製品のねじ締付け時には、電動ドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。

●本製品の取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、ゆがみなどの原因となります。

●本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。

●戸当りの切欠き形状は指定寸法にて加工してください。

指定寸法以外で取付けるとドア本体が閉まらない、ドアと戸当りのすき間が大きくなるなどの支障が出る場合があります。

●ストライクの掘り込みは指定寸法にて加工し、取付け時にストライクが戸当りに対して傾きがないことを確認してください。

加工形状が大きいとストライクが取付かなかったり、また、加工深さが浅かったり、ストライクが斜めに取付いていると本体が閉まらないなどの支障が出る場合があります。

●ストライクの調整プレートが枠の端部より出過ぎないようにしてください。(目安4mm以下)

枠の端部より出過ぎるとひっかかりなどの支障が出る場合があります。

●運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。

●納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買求め店までご連絡ください。
(取付け後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)

●現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。

●各部材のガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。

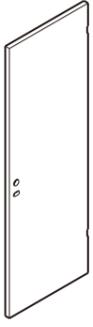
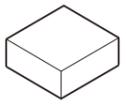
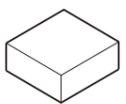
●取付け時の建具養生などは、ダンボール・ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直張りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のおお願い

●本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・昼夜などで温度差の激しい場所
- ・湿気の多い場所

■部品・部材の名称

ドア本体	丁番セット	ストライクセット
		
	ハンドルセット	錠セット
		

■ストライクセット明細

ストライク(受け部)	1個
ストライク(調整プレート)	3枚
取付けねじ(皿木ねじ3.5×20)	4本

■ハンドルセット明細

ハンドルセット	1組
台座セット	1組
ハンドル固定ねじ	1本

■錠セット明細

錠座セット	1組
-------	----

■丁番セット明細

丁番(上用)	1個
丁番(下用)	1個
本体取付けねじ(なべタッピンφ4×30)	8本
枠取付けねじ(皿タッピンφ4×60)	8本
枠取付けねじ(皿タッピンφ3.5×20)	6本

■ドア本体明細

ドア本体	1体
取付け説明書	1
取扱い説明書	1
施工上のお願ひ	1

本製品はリノバカタログのチェックシートに基づき測定していただいた内容で製作しております。既存枠の狂い、本体寸法、丁番・ストライク取付け位置、特別仕様内容をご確認のうえ、以下の手順に沿って取付けを行ってください。チェックシートの内容と異なると、後でトラブルの原因になるおそれがあります。

■取付け手順

1 既存ドア本体の取外し

既存ドア本体を取外します。また、丁番、ストライク(ラッチ受け)を取外します。

2 戸当りの施工

既存の戸当りの高さが縦枠側12mm以上、鴨居側15mm以上あることを確認します。

上記寸法未満の場合は、ドアを閉めた時の端部の明かりの透過が均一にならない場合があります。

戸当り材を現場手配品にて高さを確保していただくようおすすめします。

3 カバー材の取付け

カバー材使用の場合は、「リノバカバー材」同梱の取付け説明書にしたがい、カバー材の取付けを行います。

戸当り部分は丁番取付け後(4参照)に、ストライク部分は位置出し後(8参照)にカバー材を取付けてください。

4 枠側丁番の取付け

①縦枠に丁番の取付け位置出しを行います。

ドア本体の上下を本体ラッチ加工位置より確認します。

ドア本体下端から丁番加工中心位置までの寸法を測ります。

ドア本体下端から下丁番加工中心位置までの寸法をCB、上丁番加工中心までの寸法をCCとします。

枠側の丁番取付け位置は、下記算出公式にて算出します。

[カバー材無しの場合]

下用丁番中心位置A=CB-43mm

上用丁番中心位置B=CC-43mm

[カバー材有りの場合]

下用丁番中心位置A=CB-41.5mm

上用丁番中心位置B=CC-41.5mm

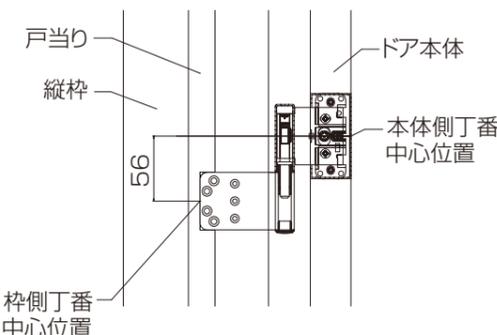
※縦枠、上枠、下枠をカバーした場合のみ参照。縦枠、上枠をカバーした場合は、[カバー材無しの場合]を参照してください。

丁番中心位置A・Bを既存床面または下枠面より丁番中心位置までの距離を位置出しします。

※下枠にカバー材を取付ける場合も、既存下枠面から丁番中心位置までの距離を位置出ししてください。

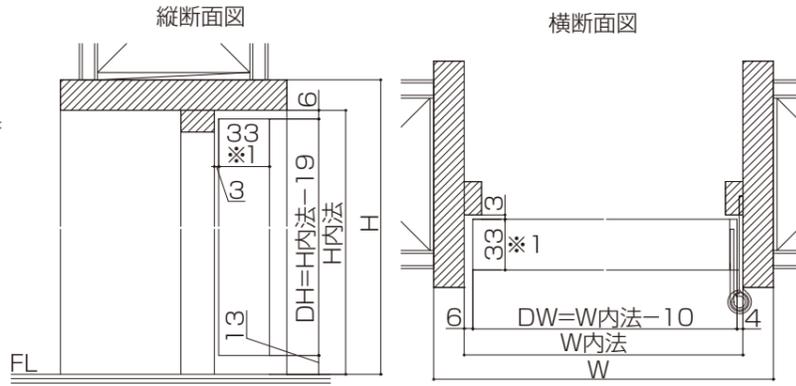
参考納まり図①

本体側丁番中心位置と枠側丁番中心位置56mm



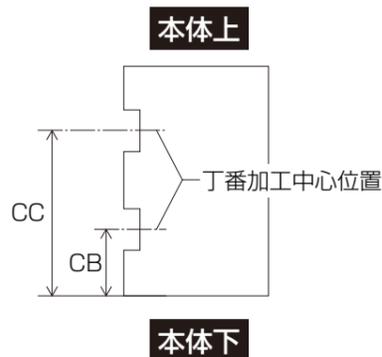
参考納まり図②

枠-本体納まり図
(カバー材取付け有無に関わらずチリ寸法は同じになります)

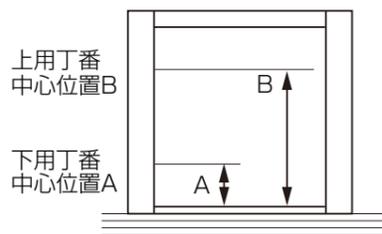


※1 室内ドアの場合は戸厚33mm、戸襖ドアの場合は戸厚35mm

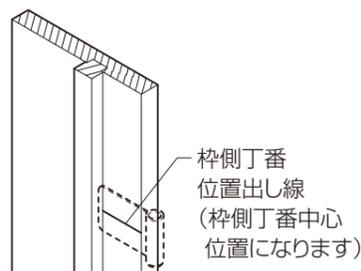
●ドア本体丁番加工位置図



●枠側丁番取付け位置図



●枠側丁番位置出し図

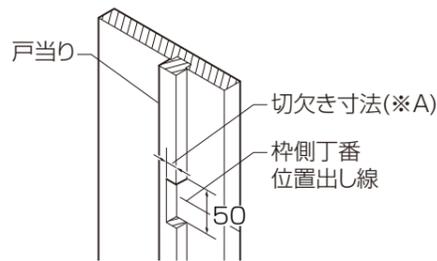


② 丁番の取付け位置に指定寸法にて戸当りの切欠きを行います。
切欠き寸法は取付けパターンによって、下記寸法を参照してください。

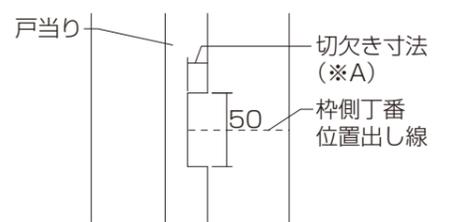
■切欠き寸法（※ A 右図参照）

- ・室内ドア:カバ材有りの場合⇒12.5mm
- ・室内ドア:カバ材無しの場合⇒14mm
- ・戸襖ドア:カバ材有りの場合⇒10.5mm
- ・戸襖ドア:カバ材無しの場合⇒12mm

●戸当り切欠き図



●戸当り切欠き正面図

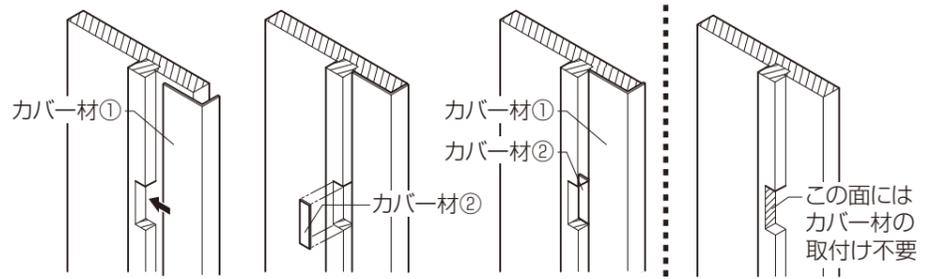


お願い

戸当りの切欠き形状は指定寸法にて加工してください。指定寸法以外で取付けるとドア本体が閉まらない、ドアと戸当りのすき間が大きくなるなどの支障が出る場合があります。

※カバ材を取付ける場合（詳細は、「リノバカバ材取付け説明書」を参照ください。）
戸当り切欠き後に枠側のみカバ材を取付けてください。
戸当り切欠き部の丁番端部があたる面にはカバ材の取付けは不要です。
ストライク側のカバ材取付けは、ドア本体取付け後(8参照)に取付けてください。

●丁番部分カバ材取付け図

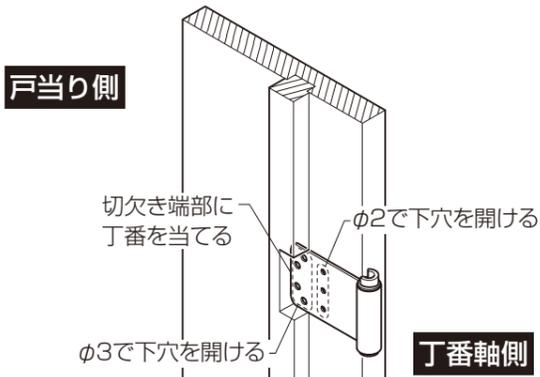


③ 戸当り切欠き部に枠側の丁番を切欠き加工端部に押し当てねじ固定位置を決めます。
戸当り側の4穴はφ3にて、丁番軸側の3穴はφ2で下穴を開けます。
戸当り側は丁番部品セットに同梱の皿タッピンφ4×60(4本)で、丁番軸側は皿タッピンφ3.5×20(3本)にて取付けてください。
※丁番軸側に皿タッピンφ4×60ねじにて固定しないように確認してください。
※カバ材を取付ける場合
丁番取付け後、戸当りにカバ材を取付けてください。
(戸当り部のカバ材取付け方法は、「リノバカバ材取付け説明書」を参照ください)

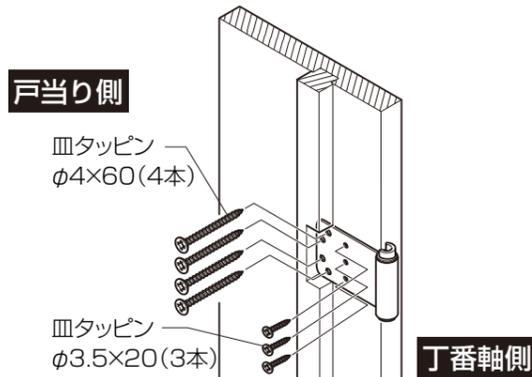
▲注意

丁番の戸当り側ねじ(皿タッピンφ4×60 4本)固定位置に躯体があることを確認してください。丁番固定ねじは必ずゆるみ・ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。

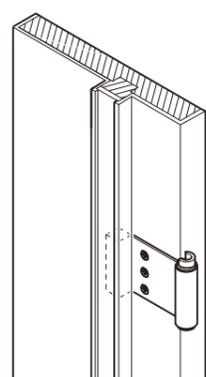
●丁番押し当て、下穴指示図



●枠側丁番の取付け図



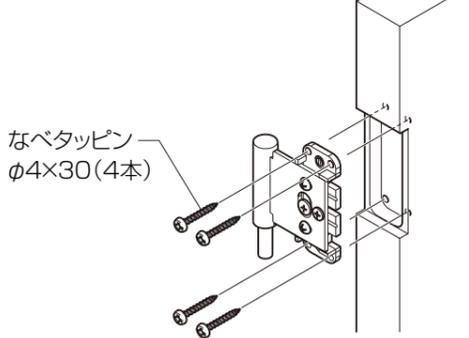
●丁番固定後カバ材取付け図



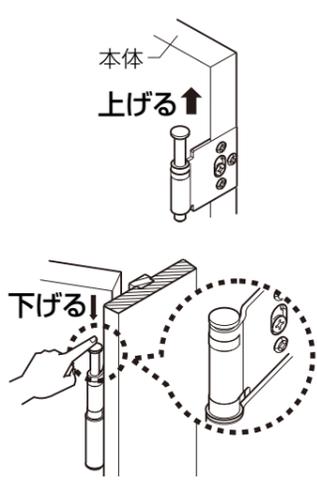
5 ドア本体側丁番の取付け

ドア本体の上下を確認し、丁番加工部に本体側の丁番をなべタッピンφ4×30(4本)にて固定します。

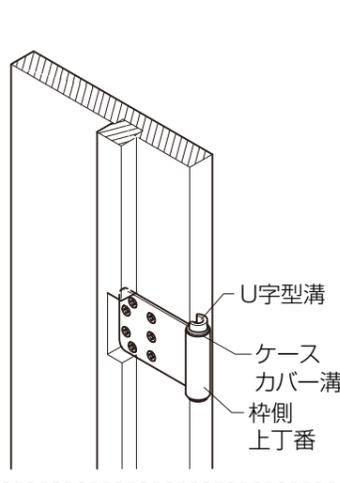
●本体側丁番取付け図



●上丁番詳細図(本体側)



●上丁番詳細図(枠側)



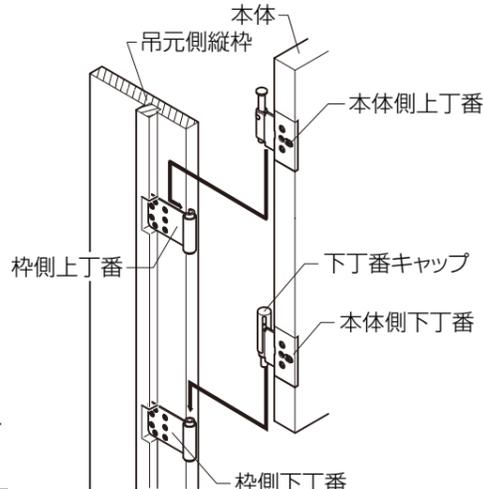
▲注意

本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。本体脱落の原因となります。

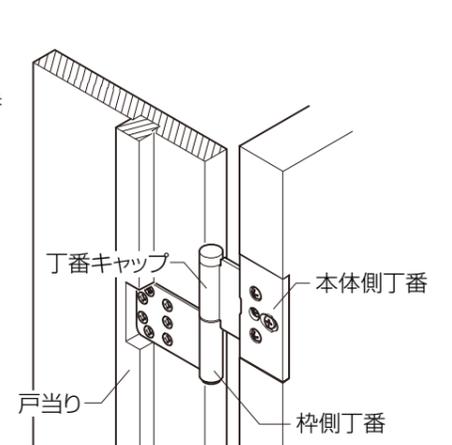
6 ドア本体の取付け

- ① 下丁番キャップを上げます。
- ② 上丁番キャップを外してください。
- ③ 本体側上丁番の軸を止まるまで上げます。
※軸は8mm程度残した位置で止まります。
- ④ 本体側下丁番を枠側下丁番に差し込みます。
※本体側下丁番の軸を垂直に差し込んでください。
- ⑤ 本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字型溝にはめ込み、本体を吊込みます。
- ⑥ 本体側上丁番軸を止まるまで下げてください。
- ⑦ 上丁番キャップを取付けます。
※枠側上丁番のケースカバ材溝にはめ込んでください。
- ⑧ 下丁番キャップを下げます。
※枠側下丁番のケースカバ材溝にはめ込んでください。
- ⑨ 本体側上丁番の軸が下がっていることを確認してください。
- ⑩ ラッチは吊り元により、箱錠のカバーを外して向きを変えてください。
- ⑪ ハンドルを取付けてください。(ハンドルの取付けについてはハンドルセット内の取付け説明書を参照ください)

●吊込み図



●取付け完成図

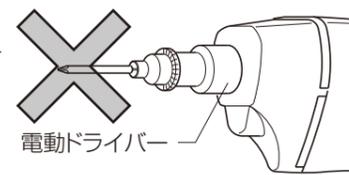
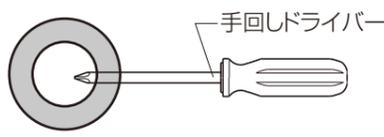


7 建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。

※電動ドライバーは、使用しないでください。

また、固定ねじをゆるめずに、左右調整ねじ、前後調整ねじを回さないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



ドア建付け
調整方法動画



5834220673001

上下の調整

- 本体側下丁番で調整します。
- 調整幅は、上側に3mm、下側に3mmです。

不具合例

1. ドアの上部が枠に当たる。

調整方法

- ①本体側下丁番キャップを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③丁番キャップをはめる。

不具合例

2. ドアの下部が枠に当たる。

調整方法

- ①本体側下丁番キャップを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③丁番キャップをはめる。

左右の調整

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.5mm、開き側に3.5mmです。

不具合例

1. ドアの開き側が枠に当たる。

調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

不具合例

2. ドアの開き側のすき間が大きすぎる。

調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

前後の調整

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、前(2mm)、後(2mm)です。

不具合例

1. 開き側の枠が前に出ている。

調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを右に回してドアを前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

不具合例

2. 吊元側の枠が前に出ている。

調整方法

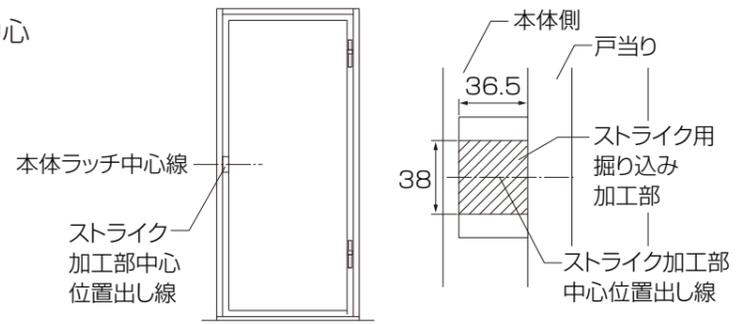
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを左に回してドアを後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

注意

建付け調整(丁番による調整)時、本体側丁番の固定ねじは必ずゆるみ、ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。

8 ストライクの取付け

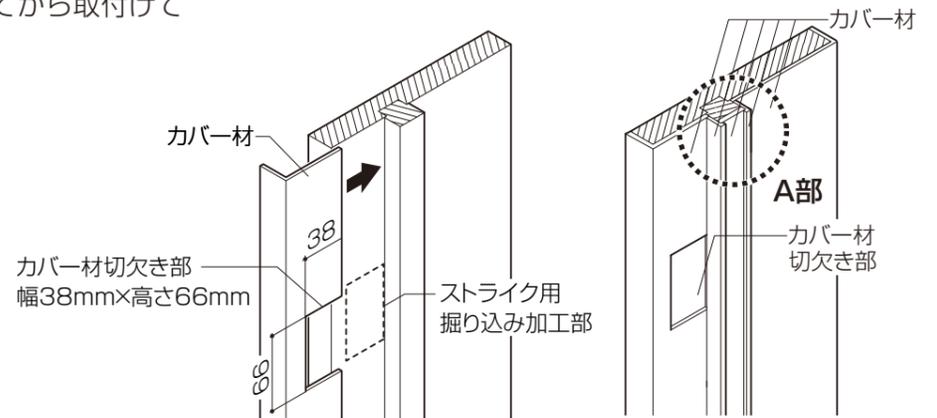
① 本体建付け調整後、本体ラッチ中心位置に合わせて、枠側にストライク掘り込み加工部の中心位置出しを行います。



※カバー材を取付ける場合(詳細は「リノバカバー材取付け説明書」を参照ください。)

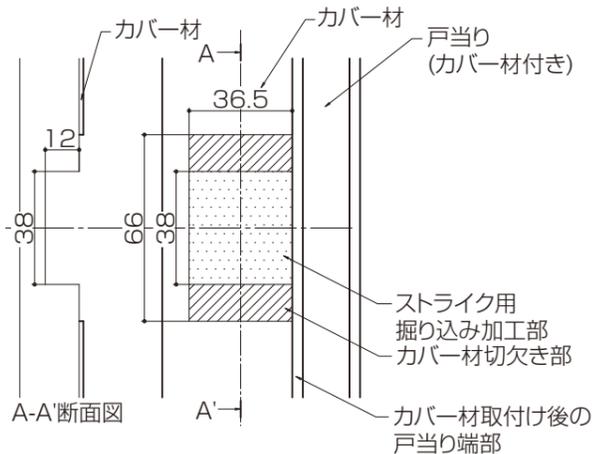
ストライクの掘り込み加工部に合わせて、あらかじめカバー材の切欠きを行ってから取付けてください。

(カバー材の切欠き寸法は、幅38mm×高さ66mm)

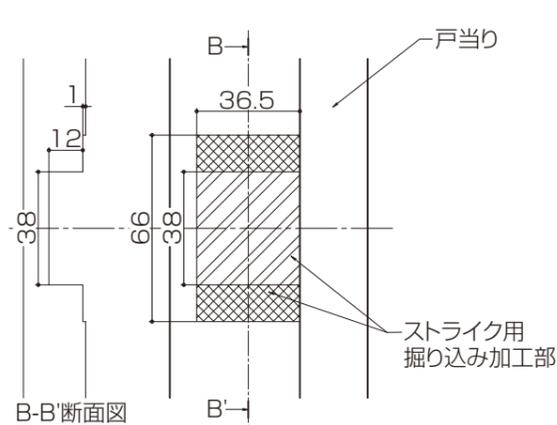


② 下図の加工形状にしたがいストライクの掘り込み加工を行います。

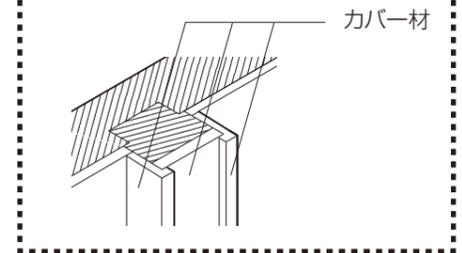
カバー材有りの場合



カバー材無しの場合



A部詳細図



お願い

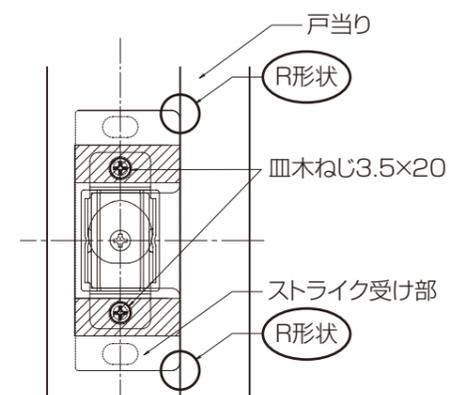
ストライクの掘り込みは指定寸法にて加工し、取付け時にストライクが戸当りに対して傾きがないことを確認してください。加工形状が大きいとストライクが取付かないおそれがあります。

③ ストライクの受け部を取付けます。

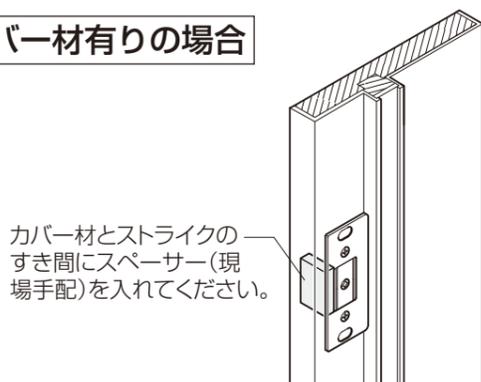
角部にR形状がついている側を戸当りに当てて固定位置を決めます。ねじ固定位置はφ2で下穴を開け、同梱の皿木ねじ3.5×20(2本)にて固定します。

また、ストライクと枠端部の処理はカバー材取付けの有無に応じて下図のように行ってください。

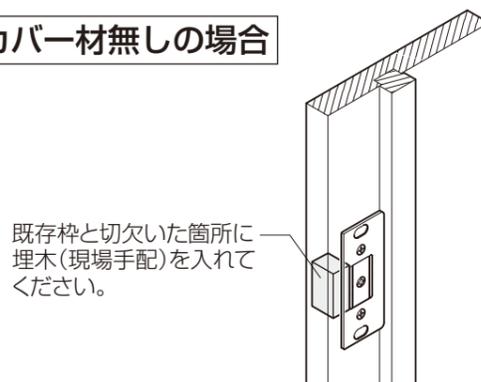
● ストライク受け部取付け図



カバー材有りの場合

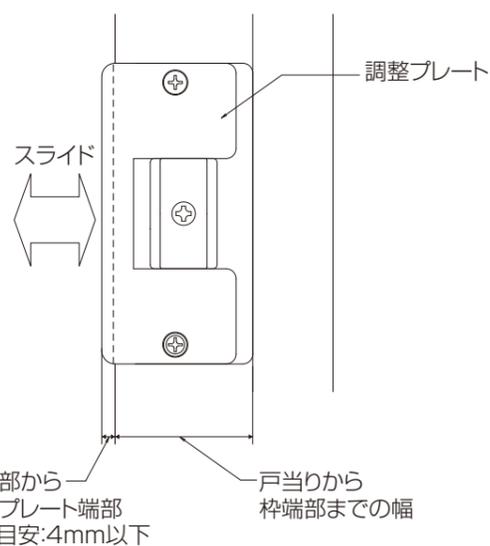


カバー材無しの場合



- ④ストライクの調整プレートを取付けます。
 ストライクの調整プレートは3種類あります。
 戸当りから枠端部までの距離に応じた調整プレートを使用してください。

種類	調整プレート(幅小)	調整プレート(幅中)	調整プレート(幅大)
外形			
戸当りから枠端部までの対応幅	37mm以上41mm未満	41mm以上46mm未満	46mm以上50mm以下

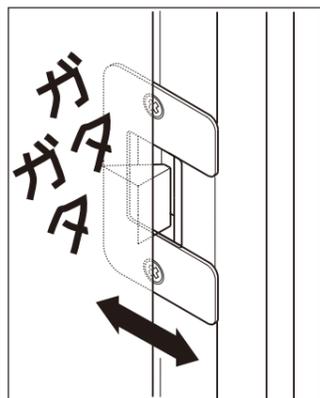


調整プレートの端部側が枠端部にくるようにしてスライドさせて位置を決め、φ2で下穴を開けてから同梱の皿木ねじ3.5×20(2本)にて固定します。

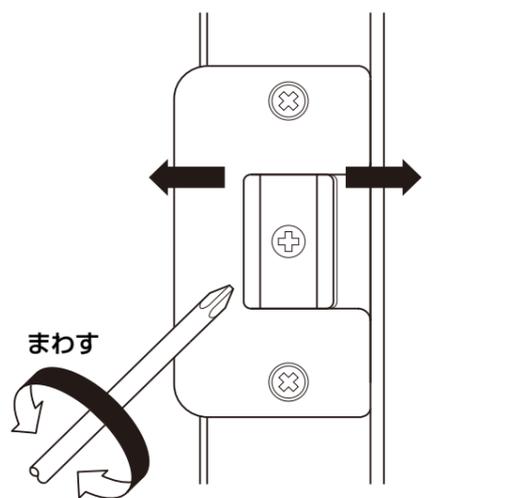
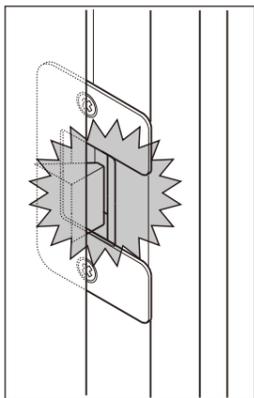
お願い
 ・ストライクの調整プレートが枠の端部より出すぎないようにしてください。(目安4mm以下)枠の端部より出すぎるとひっかかりなどの支障が出る場合があります。

- ⑤建付け調整
 ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。
 調整幅は、左右±3mmです。

ラッチがストライクの中でガタつく



ラッチがかからない



⑨その他

- ・ドアストッパーの取付けについては、ドアストッパー内の取付け説明書を参照してください。

■戸襖ドアの現地張り

- 生地タイプの戸襖の場合は、現地で襖紙を張ってください。
- ①本体の生地面側(白色)に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で張ります。
- ②襖縁を、本体の寸法に合わせノコギリで切断します。
- ③襖縁のリケイ紙をはがし、襖紙の上から圧着してください。
- ※襖縁の厚さは2種類あります。厚い方を縦に、薄い方を横に使用してください。
- ※現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から上に張増ししてください。

お願い
 ●クロス張りにしないでください。ソリが生じます。

